

## 意見募集結果公表資料(個別案件用)

案件名	亀岡市新資料館(仮称)整備基本構想(案)		公表日	令和6年3月22日
<p>上記案件について、貴重なご意見をお寄せいただきありがとうございました。 お寄せいただいたご意見及びこれに対する亀岡市の考え方を以下のとおり公表いたします。</p>				
意見募集期間	令和6年2月22日～令和6年3月15日		意見数	5件
意見の要旨			亀岡市の考え方	
<p>P9 2-3利用者ターゲット 重点ターゲットとして、(C)と(E)とあるが、(C)の成長を支える両親・家族層(B)も、ターゲットとして重要であり、重点に加えるべき。(C)と一緒に郷土の歴史文化を学ぶことは、子育てにとってもおおいに一助とすることができる。</p>			<p>公立博物館として、ご意見の(B)家族層を含めたすべての世代をターゲットと考えていますので、「次のターゲットに重点を置きます。」という表現を、「次の利用者層を特に意識して整備を進めます。」のように表現を見直します。</p>	
<p>P11 3-2. 基本機能 (1)収集 「亀岡のたからもの」にふさわしい資料を収集するとありますが、たからものにふさわしいとは、いつ、どう判断するのか。亀岡の歴史、文化、くらしなど亀岡地域の様子を具体的にあらわすものを丁寧に収集することが必要だと考えます。</p>			<p>ご意見を受け、『「亀岡のたからもの」にふさわしい資料』という表現を、『亀岡の「たからもの」となる資料』のように表現を見直します。</p>	
<p>P11 3-2. 基本機能 (3)調査・研究 専門的な見地から「もの」に「たからもの」としての価値を見出し...とありますが、収集資料を確実に後世に伝えていくことでたからものとなるものである。収集資料、未調査資料の価値づけが目的ではなく、きちんと後世に伝えられる環境を整えること、関連情報を整理すること、適切に利活用できるように整理することが必要だと考えます。 博物館の調査研究は、価値づけが目的ではなく、広く地域の様子を理解すること、そして、多くの人に理解してもらえるように、ものや情報を提供することにあると思います。</p>			<p>ご意見を受け、(3)調査・研究の方針部分を、文化財保護法の条文を参考にして、『亀岡の「たからもの」について理解を深め、歴史上・学術上の価値を見出す』のように表現を見直します。 なお、多くの方が理解しやすいように資料を整理し、情報提供することは、(4)展示・公開に属する機能と考えています。</p>	

## 意見の要旨

## 亀岡市の考え方

## P13 3-3. サービス機能

検討されているそれぞれのサービス機能を果たしながら、ターゲットにも挙げられている「児童・生徒(小中学生)/ 亀岡市に来る観光客」にとっての魅力として参考になりそうな小さな博物館がオランダにありました。施設の庭には街の全景を模した水が流れる公園があり、水路は子どもたちが長靴を履いて治水の体験学習ができるようになっていました。最初のコーナーでは街の成り立ちがアニメーションで紹介され、生活文化に関するものが展示され、当時の生活体験ができるスポットがいくつかあり、少し企画展スペースもあるようなつくりになっていて、常時、子どもだけではなく大人も楽しめる構成になっています。昨年秋に訪問したのですが、カフェやミュージアムショップも併設されているので、訪れる方々がゆったりとくつろいで過ごしている様子が印象的でした。

▼オランダ語ですが、ホームページの下に施設の紹介動画もあるのでご参照ください。  
<https://www.biesboschmuseumeiland.nl/en/plan-je-bezoek/>

そのほかに訪ねたオランダの史跡でも、城址の立体模型を使ってお堀にどのように水が入ると敵から身を守れるか?など、実際に小さなポンプで水を溜めて流し、城壁や堀を塞ぎながら考える体験が子どもたちに人気で、展示するだけではなく「体験できる」ことが学習や観光においても大事だと思いました。

最近では地域の民俗行事に関心のある外国の方や代々続く祭りに参加したい若者もいらっしゃるため、新しい文化資料館がハブとなりながら観光客や関係人口層を集め、担い手不足の祭りや行事を着地型観光で盛り上げる流れをつくっていけると良いのかなと思います。

・基本構想では、多くのターゲットのうち、次代を担う児童・生徒に重点を置くとしており、ご意見のような子どもたちの体験スペースは導入していきたいと考えています。

・基本方針の3に「地域の文化観光の拠点」を掲げており、ご意見のとおり、文化観光の拠点として地域の活性化に寄与することが重要と考えています。

## 意見の要旨

## 亀岡市の考え方

## P17 5-2. 新博物館の施設規模

建設予定地について現在の予定地も魅力的な場所ではあると思うのですが、農山村エリアへの建設についても可能性があるのではないかと思います。理由としましては、

## ①現時点での交通における課題

駅から徒歩の場合は近く、亀山城址も近くにあるため、城下町観光においては良い立地だと思いますが、クニッテル通りを駅側から城下町へ右折する場合、通りならびに右折車の混雑が見受けられるので、人気テーマでの展示等を行った場合は交通面に課題があると考えます。また、近隣にはサンガスタジアムがあるため、試合日と展示が重なると駅周辺の交通キャパシティはオーバーしてしまうように感じました。

## ②農村文化の発信拠点としての意味づけ

亀岡らしさを発信するにあたって、農村の原風景が残るエリアへの建設も一案ではないでしょうか。地元の方が「何もない」とつつい口にしてしまう集落にも美しい文化や歴史の痕跡が残っており、代々伝統を守りつないできた人たちがいます。長い時間をかけて土を耕し物資を供給してきた農村文化に対するアイデンティティを再認識し、シビックプライドを醸成するためにも農村エリアに発信拠点が必要ではないかと考えます。例えば、近江八幡のラコリーナ (<https://loftwork.com/jp/finding/studytour-taneya-la-collina>) は、決してアクセスがいいとは言えない場所にありながら年間400万人近くが訪れています。“わざわざ行きたくなる場所”をあえて農村エリアにつくことで、ひいては観光の促進にもつながり、駅からの定期的な農村観光用のバス等を走らせれば観光客だけでなく、地元住民にとっても利便性が向上するのではないかと感じました。(観光において二次交通も課題ではあるので)仕事で深い歴史文化に関心を寄せて亀岡に来てくださる外国の方々をご案内することもあるのですが、例えば法常寺さんのようなロケーションと歴史・文化性、田んぼが広がる光景にとっても感動されます。インバウンドの方は特にわざわざ足を運ばれることで満足度も高くなり、周辺の農家民宿等での滞在を楽しまれる傾向にあるので、滞在時間と消費額を伸ばす観光が可能になると思います。

## ③その他

あまり民間企業の批判はしたくないのですが、現在予定されているエリアだと駅からの導線にスギ薬局があり、カラフルな看板や幟旗が目立つので、本気で文化観光を進めるのであれば、ある程度景観におけるガイドラインや色彩ルールがあるといいのかなとも感じました。

新博物館の立地については、下記の点に留意しながら検討を行い、望ましい建設予定地として選定いたしました。

- ・亀岡の「たからもの」を守る(基本方針1)ために、ハザードマップでレッドとならない場所であること
- ・市民と市民をつなぐ(基本方針2)ために、多くの市民がアクセスのしやすい場所であること
- ・地域の文化観光の拠点(基本方針3)とするため、亀岡駅等に近く、観光拠点(p10)へのアクセスが便利な場所であること